

積極的な生徒指導の推進

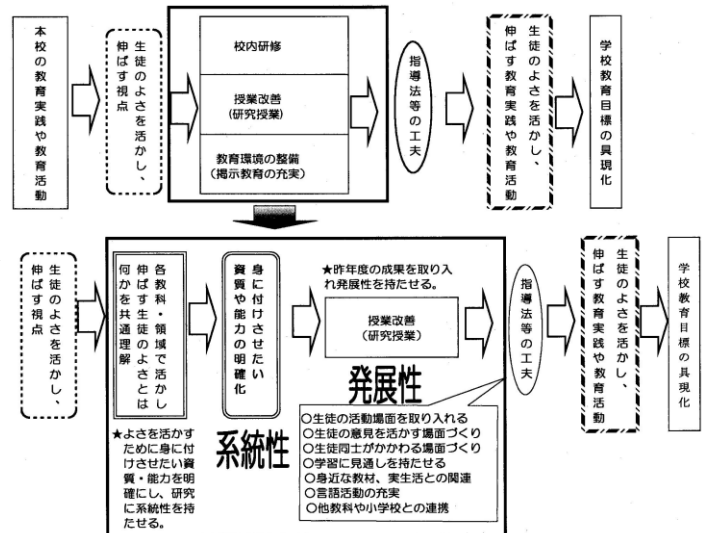
生徒のよさを活かし、伸ばす指導法の工夫

川越市立川越第一中学校

1 はじめに

本校は市内の中心部に位置し、開校69年目を迎えた、生徒数568名の中規模校である。平成26年度より、川越市教育委員会、川越市教育研究会の委嘱を受け、「生徒のよさを活かし、伸ばす指導法の工夫」を主題として、積極的な生徒指導の推進に向けた学校研究に取り組んでいる。

本校では、多くの教職員が創意工夫をして教育活動に新たな試みを取り入れ、日々研鑽を重ねているが、本学校研究の目的は、こうした日常の様々な教育活動に「生徒のよさを活かし、伸ばす」視点を当てて教育効果をさらに高め、「自主 練磨 敬愛」の学校教育目標の具現化をめざすものである。



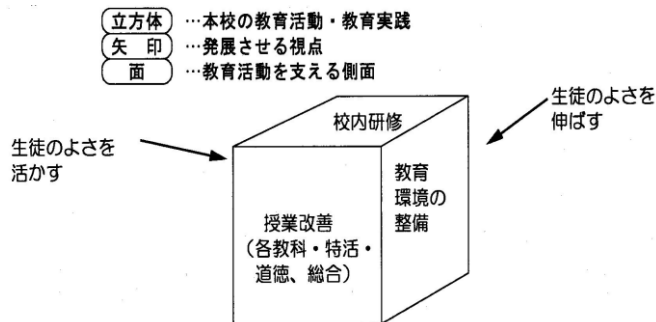
<身に付けさせたい資質・能力(各教科)>

	重点的に着目する生徒のよさ	身に付けさせたい資質・能力	指導法や学習活動の工夫
国語	・自主的・積極的に学習する	・生徒自ら課題を設定し、小グループで追究し、発表する能力	・課題を意図しながら教材を読む。 ・個人やグループでの課題追究 ・役割分担しながらの発表 ・グループ学習を通じた学び合い
社会	・学習意欲の高さ ・表現力	・社会的事象に対する関心を持ち、主体的に課題をとらえる力 ・多面的・多角的に考察する力 ・他者とのかわりの中で 思考を深め、公正に判断する力 ・思考・判断した結果を適切に表現する力	・ニュースキャスター ・主体的・協働的な学習の工夫 ・グループ学習の成果を活かして個人の思考力を深める。 ※平成29年度関東ブロック社会教育研究大会の研究を兼ねる ・多目的室の効果的な活用
数学	・課題を自ら解決する力(書くこと、話すこと)	・数学のよさを実感し、活用し、考えたり表現したりする力	・生活場面での応用 ・既習内容の活用(小・中) ・生徒同士の教え合いの場の設定

2 研究の基本方針

- (1) 生徒の「よさ」を全教職員で共通理解する。
- (2) 既存の組織や分掌、日常の教育活動や実践を活かし、組織的かつ効率的に研究を進める。
- (3) 校内研修・掲示教育を充実させ、各教科・領域の授業実践を通して指導法の工夫を図る。

3 研究の構想



1年次の成果と課題を踏まえ、今年度は各教科・領域で身に付けさせたい資質や能力を明確化し、研究の系統性と発展性を図った。

4 具体的な取組

(1) 生徒の実態調査結果に基づく指導法の工夫

教師が活かしたい「よさ」	教師がさらに伸ばしたい「よさ」	生徒の自己評価
<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲や関心 ○集中力 ○向上心 ○素直さや真面目さ ○たくましさ ○公共心や正義感 	<ul style="list-style-type: none"> ○自信を持って行動する、発表する ○自己表現・自己主張 ○創意工夫 ○コミュニケーション能力 ○積極性 ○自主性 	<ul style="list-style-type: none"> ○学習意欲、授業の参加態度 ○わかろうとする努力 ○仲間よさを認める ○責任感 △発表力・表現力

教師は、「表現力・発表力」を生徒の「よさ」として考えているが、生徒自身の自己評価は高いとはいえず、教師と生徒では認識の違いがある。

生徒の学習意欲が高まる授業・生徒が好きな授業

- ・授業内容に興味を持てる授業
- ・授業がわかりやすい授業(わからないことがわかるようになった)
- ・実験などの活動や作業、調べて追究する場面がある授業
- ・グループで話し合ったり、発表したりする授業
- ・学習の目的が明確で、見通しを持てる授業
- ・新聞やレポート、論文などで学習のまとめを行う授業

「自己表現力」や「学習意欲・関心」を中心とした本校生徒のよさに着目して、授業研究を通して指導法の工夫・改善を図ることとした。

(2) 授業実践を通しての研修と成果の共有

今年度はのべ40名の教師が研究授業や公開授業を校内で実施し、ほぼ全員が他の教師の授業を参観し、そのうちの80%が2回以上参観した。その結果、教科を超えて効果的な指導法や工夫の成果を共有することができた。

(3) 生徒のよさを活かし、伸ばす指導法

以下は、各教科の授業実践における指導法の工夫例である。これらは、実態調査で生徒が「意欲が高まる授業」、「好きな授業」と回答した内容と合致するものである。さらに今年度は、主体的・協働的な学習の充実をめざし、知識構成型ジグソー学習を取り入れた授業も実施している。



① 学習意欲を高め、生徒主体の授業にする手立て

- 生徒の活動を取り入れる → 体験的・作業的な活動、技能を習得する活動、話し合い活動や発表など。役割分担も効果的。
- 多くの意見を出させる → 多面的・多角的な考察、比較や関連付け、お互いのよさの認め合い、自信を持たせる、など。導入やまとめの場面で活用。
- 生徒同士のかかわりを活かす → 意見交換、学び合い、相互評価、など。
- 目標や主題を明確にし、学習に具体的なイメージや見通しを持たせる。
- 生徒の実生活と学習内容に結び付きを持たせる。

② 表現力、コミュニケーション能力等をさらに伸ばす手立て

- 言語活動の充実 → 自分の思いを言葉や文字で表現する活動、伝え合う活動、まとめや振り返りを文章で書く活動、など。

③ 小学校の学習や他教科の学習との連携 → 話し合いの仕方や実験など。

(4) 「わたしの工夫」—全職員によるまとめ

「生徒のよさ」に着目して取り組んだ指導法の工夫について、全教師が「わたしの工夫」として実践事例をまとめ、振り返りを行った。

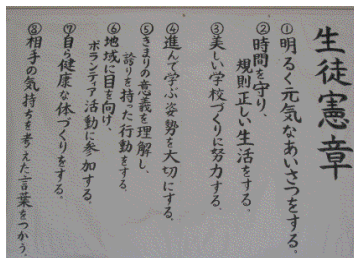


(5) 組織的な道徳の実践

道徳部会が中心となり、話し合い活動やロールプレイングをマニュアル化して取り入れたりと、学年共通の教材を活用したりしたほか、校内研修において学年ごとに職員合同で指導案を作成し授業を実施するなど、組織的な道徳の実践に努めた。

(6) 既存の活動を見直す特別活動の実践

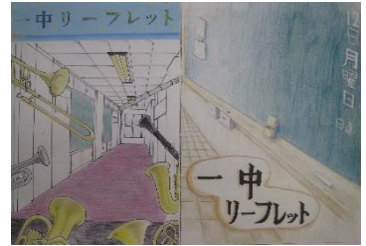
学校生活の様々な場面や学校行事における生徒主体の活動を、今年度は、「生徒のよさを活かし、伸ばす」視点で見直すとともに、平成7年3月に制定された「生徒憲章」と学校生活の具体的な関



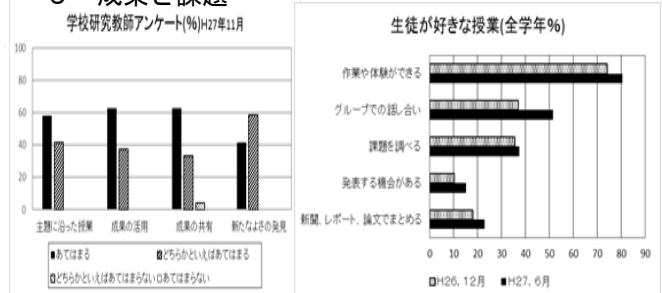
わりを、委員会活動などを通して改めて生徒に意識付けている。また、学年で共通して学級活動を実施したり、計画的に行事と関連付けて構成的グループエンカウンターを実施したりしている。

(7) 成果を継承発展させる総合的な学習の時間

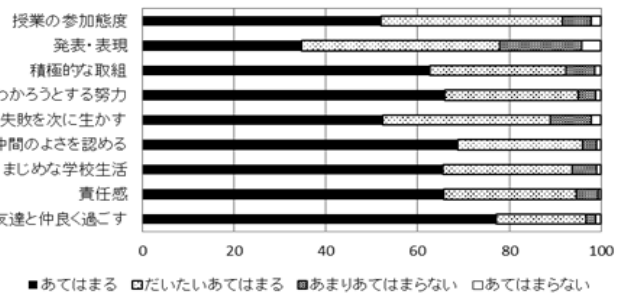
本校では、自ら課題を設定し追究する学習の成果を表現・発表する場面を多く設けている。今年度は、上級生の作品をグッドモデルとしてさらに効果的に活用し、成果が確実に下級生に継承されよりよいものに発展していくよう努めている。今後は、年生が作成する「一中リリーフレット」を、小学校と連携しながら活用を図っていききたい。



5 成果と課題



生徒自身が考える「よさ」(全学年%)H27.6月



- 教師の日常的な授業改善が促され、生徒は、学習意欲や積極性ととも自己肯定感を高めた。
- 基本的な生活習慣や学習習慣、思いやり、夢の実現などについての自己評価が上がり、92%の生徒が「一中に入学してよかった」と回答した。
- 自校に対する誇りを持って生活する、他者との関わりの中でよりよい自分を目指そうとする、などの本校生徒のよさを再認識することができ、本研究は学校教育目標の具現化につながった。今後も成果を継承・発展させ、教育活動の質的向上に取り組み、期待に応える学校を目指したい。